



## 2023年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年11月10日

上場会社名 株式会社湖池屋  
コード番号 2226 URL <https://koike-ya.com/>  
代表者 (役職名) 代表取締役会長  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営管理本部長  
四半期報告書提出予定日 2022年11月11日  
配当支払開始予定日  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
TEL 03-3979-2116

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	20,383		379		414		220	
2022年3月期第2四半期	20,602		837		842		512	

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 421百万円 ( %) 2022年3月期第2四半期 623百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	41.40	
2022年3月期第2四半期	96.07	

(注) 前連結会計年度は決算期変更の経過期間となり、前第2四半期連結累計期間については、当社は6ヶ月間(2021年7月1日～2021年12月31日)、在外連結子会社は9ヶ月間(2021年4月1日～2021年12月31日)、当第2四半期連結累計期間については、当社グループ全体で2022年4月1日～2022年9月30日を連結対象期間としております。このため、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	28,270	14,351	50.1
2022年3月期	27,093	14,227	51.8

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 14,159百万円 2022年3月期 14,029百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		45.00	45.00
2023年3月期		0.00			
2023年3月期(予想)				60.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	41,000		1,720		1,700		1,100		206.22

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 前連結会計年度は決算期変更の経過期間となり、通期については、2021年7月1日から2022年3月31日までの9ヶ月間となっております。このため、対前期増減率は記載しておりません。

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	5,335,000 株	2022年3月期	5,335,000 株
期末自己株式数	2023年3月期2Q	904 株	2022年3月期	904 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	5,334,096 株	2022年3月期2Q	5,334,096 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

## 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法)

四半期決算補足説明資料は2022年11月14日(月)に当社ウェブサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社は、2021年9月28日開催の第45回定時株主総会で「定款一部変更の件」が承認されたことを受け、決算日を6月30日から3月31日に変更いたしました。このため、前連結会計年度は決算期変更の経過期間となり、前第2四半期連結累計期間については、決算日が6月30日であった当社は6ヶ月間（2021年7月1日～2021年12月31日）、決算日が3月31日であった在外連結子会社は9ヶ月間（2021年4月1日～2021年12月31日）を連結対象期間とした変則的な決算となっております。このため、前年同期比については記載しておりません。

当第2四半期連結累計期間は、国内においては「スコーン」、「ドンタコス」のリニューアルが成功したことに加えて、小麦を原料とした「KOIKEYA The 海老」の販売好調などによって、馬鈴薯が不足する中でも売上は好調に推移しました。一方、世界的な物価上昇と歴史的な円安の影響によりコストが大きく増加しましたが、価格改定や高付加価値商品群の販売構成拡大などにより、利益確保に努めました。海外においては、原材料価格や海上運賃高騰などの影響が国内に比べ、より早くより強くあらわれ利益確保に苦戦しましたが、他方でタイやベトナムを中心に売上を着実に伸ばしており、戦略的な新製品の上市など事業拡大に努めました。業績は次のとおりです。

売上高は、20,383百万円となりました。利益につきましては、営業利益379百万円、経常利益414百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益220百万円となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりです。

#### <国内>

2023年3月期は、「高付加価値商品及び馬鈴薯以外を原料とした商品の売上拡大」「原材料価格高騰による利益圧迫への対応」「関東第三工場及び九州阿蘇工場の最大活用並びに新機軸商品のヒット」を、3つの戦略テーマに据え事業展開を進めております。

当第2四半期連結累計期間においては、「スコーン」、「ドンタコス」といったコーン商品にて実施した大型リニューアルが奏功し、馬鈴薯以外を原料とした商品の販売構成比を拡大しました。また、小麦を原料とする商品である「KOIKEYA The 海老」も好評を博し、ポテトチップスに頼りすぎない収益構造構築に貢献しております。

一方、世界的な物価上昇の影響への対策として、取引先様のご理解も賜りながら順次価格改定を進めており、利益維持に努めております。

商品戦略としては、引き続き高付加価値商品群を拡販しながらも、新機軸商品の開発も継続しております。

「The KOIKEYAシリーズ」においては「KOIKEYA The 海老」を発売することでブランドの成長を図り、他方では植物由来のスナックである「BECORN（ベーコーン）」を発売するなど、新しいスナック市場の創造へ向けた取り組みを継続しております。

以上のとおり、大きなコスト増加の影響がありながらも高付加価値商品群を中心とした経営を進めた結果、国内の売上高は18,060百万円となり、セグメント利益は454百万円となりました。

#### <海外>

台湾事業では、新型コロナウイルスの感染再拡大に伴う需要増加の影響があり、売上が好調に推移しております。また、日本の料亭をイメージした高単価のポテトチップス「料・都・亭」を発売するなど、台湾独自の高付加価値商品を展開しております。一方、台湾国産馬鈴薯の不足や各種原材料価格の高騰によって、原価が大幅に増加し、利益圧迫要因となっています。また、輸入芋利用期間の原価高騰への対策として商品の価格改定も検討しております。

ベトナム事業では、新型コロナウイルスの感染は落ち着き、前連結会計年度と比較して事業活動の制限は解消されております。これに伴い、人員不足等の影響で発生していた欠品も解消に向かい、ベトナム国内売上は着実に拡大しております。原材料価格高騰が大きな利益圧迫要因となっている中でも、各種コスト削減、「じゃがいも心地」の好調及び輸出事業の拡大などが奏功し、収益性の向上につながっております。

タイ事業においては、ベトナムからの輸入事業の拡大に加えて、従来販路の限られていた地方のスーパーや個人商店へも展開することで売上を拡大しております。一方で、商品仕入価格や海上運賃の高騰による影響が大きく、「じゃがいも心地」や「スコーン」といった粗利率の高い商品の拡販とともに、商品規格変更による利益確保の検討も進めております。

以上により、海外の売上高は2,322百万円となり、セグメント損失は8百万円となりました。

（2）財政状態に関する説明

総資産は、前連結会計年度末に比べ1,177百万円増加し、28,270百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加（772百万円）、原材料及び貯蔵品の増加（618百万円）によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ1,053百万円増加し、13,919百万円となりました。主な要因は、返金負債の減少（271百万円）及び長期借入金の減少（212百万円）の一方、買掛金の増加（1,441百万円）によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ123百万円増加し、14,351百万円となり、自己資本比率は50.1%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年5月13日に公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,367	4,139
受取手形及び売掛金	7,470	6,966
商品及び製品	947	1,418
仕掛品	11	56
原材料及び貯蔵品	569	1,188
その他	492	434
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	12,857	14,202
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,624	4,581
機械装置及び運搬具(純額)	5,198	5,102
土地	2,170	2,170
その他(純額)	224	168
有形固定資産合計	12,217	12,022
無形固定資産		
その他	342	326
無形固定資産合計	342	326
投資その他の資産		
その他	1,675	1,718
投資その他の資産合計	1,675	1,718
固定資産合計	14,235	14,068
資産合計	27,093	28,270
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	3,444	4,886
短期借入金	500	500
未払金	1,702	1,825
返金負債	2,147	1,876
未払法人税等	157	217
賞与引当金	313	261
役員賞与引当金	—	12
その他	817	811
流動負債合計	9,082	10,390
固定負債		
長期借入金	1,170	958
退職給付に係る負債	1,910	1,902
その他	702	667
固定負債合計	3,783	3,528
負債合計	12,865	13,919

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,269	2,269
資本剰余金	2,153	2,153
利益剰余金	9,678	9,659
自己株式	△2	△2
株主資本合計	14,099	14,079
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8	8
為替換算調整勘定	34	173
退職給付に係る調整累計額	△113	△102
その他の包括利益累計額合計	△69	79
非支配株主持分	198	191
純資産合計	14,227	14,351
負債純資産合計	27,093	28,270

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	20,602	20,383
売上原価	14,310	14,508
売上総利益	6,292	5,875
販売費及び一般管理費	5,454	5,495
営業利益	837	379
営業外収益		
受取利息	2	0
受取配当金	0	8
持分法による投資利益	8	6
為替差益	—	25
投資有価証券売却益	1	—
その他	6	5
営業外収益合計	19	46
営業外費用		
支払利息	4	4
為替差損	3	—
固定資産除却損	0	6
その他	5	0
営業外費用合計	14	11
経常利益	842	414
特別利益		
補助金収入	100	—
特別利益合計	100	—
特別損失		
固定資産圧縮損	100	—
特別損失合計	100	—
税金等調整前四半期純利益	842	414
法人税等	272	158
四半期純利益	569	256
非支配株主に帰属する四半期純利益	57	35
親会社株主に帰属する四半期純利益	512	220



(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	569	256
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4	0
為替換算調整勘定	42	139
退職給付に係る調整額	11	10
持分法適用会社に対する持分相当額	4	14
その他の包括利益合計	53	165
四半期包括利益	623	421
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	555	370
非支配株主に係る四半期包括利益	67	50

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会等が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、スナック菓子の製造販売を中心に事業活動を展開し、「国内」、「海外」の2つを報告セグメントとしております。

「国内」は当社が、「海外」においては在外連結子会社が、それぞれ独立した経営単位で事業活動を展開しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

前第2四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内	海外	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	17,421	3,180	20,602	—	20,602
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	17,421	3,180	20,602	—	20,602
セグメント間の内部売上高又は振替高	38	48	86	△86	—
計	17,460	3,228	20,688	△86	20,602
セグメント利益	792	57	850	△12	837

(注) 1. セグメント利益の調整額△12百万円はセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内	海外	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	18,060	2,322	20,383	—	20,383
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	18,060	2,322	20,383	—	20,383
セグメント間の内部売上高又は振替高	79	61	141	△141	—
計	18,140	2,384	20,525	△141	20,383
セグメント利益又は損失(△)	454	△8	446	△66	379

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△66百万円はセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。